

# 2025 英国研修

## Bangor University 短期留学報告

愛媛大学教育学部 学校教育教員養成課程

中等教育コース 数学教育専攻

大野蒼太

### 1. はじめに

私は教育学部で主に数学を学んでいる、英語とは縁の薄いただの大学生です。「英語の先生になりたい」というのであれば、留学に行く理由も明確ですが、なぜ数学の教師を志す私が留学に参加したのか、その理由を先に述べたいと思います。この留学に参加するまで私は1度も日本を出たことはありませんでした。しかし必ずしも海外に行く機会がなかったわけではありません。プライベートの旅行で海外に行こうという話もあり、高校の修学旅行もシンガポールという紛れもない海外に行く予定でした。しかし、私はその機会をすべて逃してしまいました。その最大の原因はコロナウイルスの影響でした。私たちの世代は、コロナの影響を直接受けたため、プライベート旅行も修学旅行も結局は実現しなかったのです。

こうして貴重な機会を失う中で、海外への興味は次第に膨らんでいきました。最も強く感じたのは、「海外の人々ほどのような生活を送っているのだろうか」という疑問です。一見、些細な疑問のように思えるかもしれませんが、私にとっ

ては重要な問題でした。現代ではインターネットなどを通じ、海外の様子を簡単に見ることができますが、それらはいくまで断片的な情報に過ぎません。現地で実際に体験しなければ見えない部分は、当然、想像に頼るしかなく、その想像はどうしても日本での生活に基づいてしまいます。

つまり、断片的な情報ではなく、現地に赴いて実際の生活を目の当たりにすることで、自分が日本中心の考え方をしていることに気づき、それを改めたいという思いが、この留学に参加した大きな目的です。この考えは生活面に限らず、すべての面において当てはまります。教育現場でも「多様性」や「相手の立場に立つ」といった言葉が使われますが、実際には自分自身が自分の生活を中心にしか捉えていないことに気づいたのです。これが、私がこの留学に参加しようと決意した理由です。

留学で「英語を学びたい」と思う学生が多いとは思いますが、上記のようなきっかけで参加した私がどのように感じたのか、本報告書で述べたいと思います。

## 2. 留学前の心境と準備

前段で述べた考えから、このプログラムに申し込み、実際に参加できると分かったとき、私の心にあったのは「実感が湧かない」という感想でした。確かに書類を提出し、費用も振り込んだはずなのに…なぜこんなにも実感が伴わないのか、不思議に思っていたのです。出発の10日前まで、詳細な授業予定やホームステイ先が分からなかったため、具体的なイメージを持った心の準備はできませんでした。そのため、留学に向けて特別な準備をすることはありませんでしたが、結果的にはそれで良かったと感じています。

普段、旅行などに行く際は徹底的に事前調査を行い、Google マップのストリートビューで下見するほどです。しかし、今回は何も下調べしなかったおかげで、目を見張るような美しい景色や美味しい食事に出会うことができました。だからこそ、積極的に下調べをしなくても良いのではないかと思います。

もちろん、調べなかった分だけ不安もありました。特に、食事や水については心配でした。私は体質的にお腹を下しやすく、もし合わなければ大変だと思っていたのです。しかし、結局それらは杞憂に終わりました。

ただし、持ち物に関しては入念な準備が必要です。特に下着は多めに持っていくべきです。私は着用した分も含め、6着分のヒートテックを持参しましたが、

ギリギリの状況でした。自分にとって必要なものはしっかりと調べ、準備することが大切だと思います。バンガールの冬は非常に寒いので、服装にも注意が必要です。

## 3. 留学先での体験

### ・大学について

まず大学での授業や体験について述べたいと思います。基本的に授業は朝の9時半にスタートし、午前中は座学、午後はフィールドトリップに出かけ、平均16時には終わると言う具合でした。座学に関しては、午後に見学する街や城について学ぶ授業と、英語の授業、ウェールズについて学ぶ授業がありました。特にウェールズについての授業は面白く、英語でウェールズ語について学ぶ経験はなかなかできない経験だなと感じています。フィールドトリップもバンガー周辺のスポットに行き、クイズを解きながら見学しました。どのスポットも面白くその地ならではの体験をすることができました。中でもコンウィーとハンデイドゥノについて紹介しようと思います。

コンウィーはバンガールの隣町といった具合で、バスで30分ほどかかります。街の中でも世界遺産にもなっている城と城壁が有名で、あのラピュタのモデルになったほどです。とても壮大で日本にはない様式で驚きました。(図1) とても歴史のある街で、コンウィー城早く700年の歴史があります。そんな城が残ってい

るなんて日本では考えられません。本当に驚きました。さらに昼ごはんには有名なフィッシュ&チップスを食べました。



図 1 コンウィー城

この店はホストマザーがおすすめしてくれた店でとても美味しく驚きました。私はこの時が初めてのフィッシュ&チップスでしたが外はサクサクで中はふわふわ。本当に美味しくまた食べたいなと文章を書いている今も思います。(図2)

<https://www.thefishermanshipshop.co.uk/>



図 2 フィッシュ&チップス

次にハンディドゥノです。位置関係で言うと先ほど述べたコンウィーよりも少し離れた場所にあります。ここでは人生初のアフタヌーンティーを体験しました。コンウィーでのフィッシュ&チップスも初体験でしたがこちらも初めて

で、そのおいしさに驚きました。運ばれてきたものは3段で構成されていて、一番下段はサンドウィッチ。中段にスコーン。上段にケーキと二人で食べてお腹いっぱいになりました。(図3) ドリンクはコーヒーと紅茶どちらでも好きなだけ飲むことができ、頼めば持ってきていただけます。店の雰囲気、眺め共に最高で毛玉のついたセーターできたことを後悔したほどです…美しい街並みと美味しいアフタヌーンティーをいただきとても満足しました。



図 3 アフタヌーンティー

授業やフィールドトリップ全体を通して言えることとしては、学ぶと言うよりも体験すると言うことに重きを置いているということです。ですから私のように英語ができなくともついていくことはできますし、さまざまなところに行くこと自体が経験となりました。

#### ・現地の学生との出会い

私の行った時期は普通に現地の学生が学んでいる時期であり、授業でも交流する機会がありました。そこで感じたことは、異なる国にルーツを持つ学生が本当に多いということです。イギリスではない国から来ている学生も多いですし、混

血の学生もたくさんいます。私たち日本人にはまず考えられないのではないかと思います。確かにハーフの生徒や留学生等を見る機会というのはあります。しかし、日本人同士のコミュニティーと比較するとどうしても差が生まれてしまいます。でもこれは致し方ないことです。なぜなら周りは日本人しかいないからです。ただここでの多数派は日本人ではなくさまざまな国の人であり、異文化が混じり合っています。日本ではまず体験することができないのではないかと思います。彼らは自分のルーツに誇りを持っていてこの国を愛し、かつ私たちを寛容に受け入れてくれます。それと同じことが私たちにできるでしょうか？私は本当に頭が上がりません。多様性というのはお互いを認め尊重し合うということなのだとすることを本質的に理解できた気がしました。写真は授業の後近くのバーで飲んでいる時の写真です。(図4) 普段使っている言語は違うけれども英語を使ってたくさん話をしました。とてもいい経験になりました。



図 4 異文化交流後のバー

#### ・日常生活での発見と衝撃

私のホームステイ先はバンガーからバスで20分ほどの村にありました。のどかな田舎の村といった具合で、バス停まで15分ほど歩くのですが、道中羊の中を歩くというなんともユニークな経験をしました。家はとても大きく、市街地から少し上がったところにあり、美しい街並みに海を見ながら素晴らしいサンセットが望める素敵なお宅でした。ホストファミリーは、マザー、ファザー、息子そして犬と猫がいるという構成でした。前述したように私は食事と水を心配していたのですが、食事は本当に美味しく米がないことを除けば、日本より美味しいと感じたほどです。さらに水に関してですが、バンガー周辺の家は水道水が飲めるようで、本当に美味しく地元の水道水より美味しいことに驚きました。ですから出発前に不安を抱える必要はなかったなと思いました。週末は家族で、近くの滝に行きピクニックを行いました。日本とは比にならないほど自然が豊かで、空気がおいしく歩いているだけで気持ち良かったです。



図 5 週末のピクニックの様子

日常生活で発見したこととして、ウェールズの人には本当にコミュニケーションを大切にしているということです。家の中でも食事は必ず家族揃って行い、スマホやテレビ等は一切触りません。今日あった出来事をお互いに話し、食事の時間をとても大切にしているように思いました。さらに食事が終わった後も自室に戻ることはなく、隣のリビングルームでカードゲームをしたり、映画を見たりと、本当に家族の時間を大切にしていました。週末ピクニックに出かけた際も知らない人同士が声をかけ世間話をしたり、この先の道がどうなっているか情報を共有したり、活発なコミュニケーションを取っていました。日本ではまず考えられません。本当に衝撃を受けました。

#### ・ロンドン等への旅行

バンガーについて2週目の週末は友人と旅行に出かけました。詳しくどこへ行ったとは言いませんが日本と違った風景や体験をすることができました。中でも2つだけ話します。1つ目はブリットレールパスです。私たちはこの

パスを利用して旅行したのですが、指定した日数電車が乗り放題になりしかも安いのでおすすめです。さらにファーストクラスにすると食事やお酒が食べ飲み放題になりラウンジも使用できるのでとてもリッチな旅行をすることができました。(https://www.britrail.com/) 2つ目の鉄道関係なのですが、旅行が終わりバンガーに帰ろうとしたらなんと電車が止まっていました。本当に良い迷惑なのですが、イギリスの鉄道はよくストライキで止まってしまうそうです。私たちもそれに巻き込まれ家に帰るのが深夜になってしまいました。困ったことがあったら積極的に現地の人を頼って柔軟に予定を変更するということが必要です。

最後に写真を2枚だけ載せておきます。1枚目(図6)はロンドンから移動するファーストクラスの中で出会った優しいおじさんです。



図 6 ファーストクラスの車内にて

この日は日曜日で車内もいっぱいだったのでたまたま相席をすることになり、たくさん世間話をさせていただきました。さらにインスタグラムも交換し、「次イギ

リスに来たらうちに泊まりにおいでよ」とっていただいたほどです。良い出会いができて本当に感謝です。

2枚目は聴きに行ったオーケストラです。私は日本でもよくコンサートを聴きに行くほどクラシック好きなので、せっかくに機会にと、ロンドンフィルの演奏を聴きに行きました。(図7) きっと会場の中にいた日本人は私たちだけだっただろうと思いますが、本当に日本はなかなか聞くことのできない迫力で圧倒されました。正直イギリスの人が羨ましくなったほどです。何か好きなものがある人は(ミュージカルやオペラ、絵画など)この機会に少し高いお金を払ってでも行くべきだと思います。



図7 ロンドンフィルのマーラー5番

#### 4. 結論と展望

私はこの留学を通じて、多くの体験と発見を肌で感じることができました。すべてを語り尽くすと尽きるため、ここでは特に印象に残った2点に焦点を絞ってまとめます。

##### 1. 家族という最小のコミュニティーの重要性

ホストファザーは、「家族という最小の

コミュニティーを大切にできない人は、他のコミュニティーで円滑に物事を進めることはできない」と仰っていました。この言葉を聞いたとき、私は日本に不足しているものが、この精神であるのではないかと感じました。一見、家族という小さな単位の話に留まるようですが、マクロに捉えるとその意義は非常に大きいのです。

たとえば、教育現場において、クラス内で生徒同士が協力し、意見を交わしながら課題に取り組む経験は、家庭内でのコミュニケーションや支え合いの延長線上にあります。しかし、現代日本では核家族化や都市化の影響で家庭の絆が希薄になりがちです。つまり、家庭で培われるべき基本的な協力や支え合いの精神が欠如していると、学校や職場、さらにはその他のコミュニティーで円滑な協働を実現することは難しいのです。まずは、身近な人々を大切にする精神が、日本全体において必要であると強く感じました。

##### 2. 「共助」の精神の実践

続いて、もう一つ印象に残ったのは「共助」を大切にするという考え方です。災害の多い日本では「自助」「共助」「公助」という言葉がよく用いられますが、留学中にイギリスで見たのは、日常生活に深く根付いた「共助」の姿でした。近所の人々がお互いに気軽に声をかけ合い、困っている人には自然と手を差し伸べる様子は、今の日本で見られるも

のとは大きく異なっていました。

近年、日本では個々が自分の備蓄品や自己防衛策を講じる「自助」は機能している一方で、日常的に「共助」を意識する機会は少なく、その代わりに「公助」に過剰に依存しているように感じます。もし、イギリスで実践されている「共助」の精神が日本の日常に根付けば、地域のつながりが強化され、災害時だけでなく日常生活においても支え合える社会が築けるのではないのでしょうか。

以上の2点、すなわち「家族を大切に  
する精神」と「共助の実践」が、個人の幸福だけでなく社会全体の強さに直結すると私は強く感じました。留学で得たこの気づきを、日本での生活に活かすため、まずは身近な人々との関係を大切に、そこから地域や社会へと支え合いの輪を広げていくことが、私にできる具体的な行動だと考えています。

イギリスの人々が無意識に実践していた温かくも強固な「共助」の精神を、日本の日常に取り入れることができれば、より豊かで安心感のある社会が実現できると信じています。

初めて海外に行ってみた私の感想はこのようなものです。英語はなんとかなり  
ます。正直中学校レベルでも発音がしっかりできていれば伝わると言う感覚があります。実際私も雰囲気だけ話せるといった程度です。ただリスニングは少し大変かもしれません。アメリカ英語との違いというのは押さえておくと思い

ます。大変なことはもちろんありましたが、総じて私はこの留学に参加して良かったなと思います。お金はかかりますが十分に参加する価値があったと思います。今回の留学に携わっていただいた先生はじめサポートの方々。友人。そして家族に最大限感謝を伝えて終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。